

## 平成31年度 事業報告書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘

(短期入所・訪問介護)

グループホームひろむし

ケアハウス わけ

## 平成31年度 事業報告

社会福祉法人 広虫荘

### ．法人の基本理念と基本方針

基本理念及び基本方針については、職員間で周知し、ケアの前提としている。

### ．2019年度法人全体の重点目標

平成31年度は、創立50周年を目前に全国社会福祉法人経営者協議会の「アクションプラン 2020 社会福祉法人行動指針」に即し、4つの重点項目を定めた。

- 1．サービスの質の向上
  - 2．地域における公益的な取り組みの推進
  - 3．人材の確保に向けた取組の強化
  - 4．組織統治（ガバナンス）の確立
- このことについて、以下のとおり報告する。

#### 1．サービスの質の向上

各サービス事業所においては、入所希望者・家族のニーズに沿って適切なサービスを提供できる提案や施設の選択を案内している。したがって、在宅から施設へのスムーズな移行や生活環境の変更を行うことが可能となっている。

入所申し込みもPR活動の効果もあり、少数ではあるが途切れなく確保できている。ただ、同性同室を必然としている中、待機者の偏りがあれば、入所案内ができないという従来型多床室のデメリットを感じる場合があった。

各施設の修繕・設備更新については、当初計画に従い随時進めたが、突然の故障や破損等もあり、計画以上に費用がかかった。着手については、利用者の環境整備を優先的に取り組んだ。

火災時における避難訓練等は、定期的（年2回）に実施できた。しかし非常災害（地震、土砂風水害等）時における避難訓練については、行政との連携を検討していたが調整が出来ず、今年度は取り組めなかった。来年度以降は、早期に打ち合わせを行い実施に向ける必要がある。

また、インフルエンザやノロウィルスの施設内感染があり、長期にわたり隔離状態でのケアを余儀なくされた。また、年度末には新型コロナウイルスの感染について世界規模での感染拡大が起き、当法人も面会禁止等の措置を行った。次年度以降も引き続き予防、対策をより一層講じていく必要がある。改めて感染症についてのマニュアルの確認や国からの通知等を職員へ周知徹底するなど日頃から情報の収集を行っていききたい。

#### 2．地域における公益的な取り組みの推進

喀痰吸引等研修事業については、平成30年度実施した事業が当法人内での被実習対象者の利用者が少なく、予定していた期間での終了が出来なかった。このため今年度にまたがり事業の終了を迎えた。当事業については、対象者の減少は見受けられるものの、まだまだ経管栄養等の利用者もおられるので研修未終了者には、引き続き事業実施の必要性がある。しかし、今後も実習の時間の確保が困難とみられ、複数年度（2年）での事業期間とするなど実施方法について検討する必要がある。

また、昨年度に引き続き赤磐市社会福祉法人連絡協議会の一員として次の3つの生活困窮者支援に取り組んでいる。

食糧支援事業（くらしサポート事業）

一時生活支援事業（安心すまい事業）

就職支援事業（しごとサポート事業）

さらに、小・中学生に介護の認識や介護分野への興味を持てるよう福祉総合学習として高齢者疑似体験や車いす体験の講師として派遣した。（市内小中学校・・・7校）

その他、地域サロン会からの依頼で、出前講座に職員を派遣した。（市内コミュニティー・・・5か所）

### 3．人材の確保に向けた取り組みの強化

今年度は、介護職員等特定処遇改善手当の創設や最低賃金の変更等で賃金規定の変更を行った。また、嘱託規定の変更を行うことで定年後の再雇用者の待遇を改善し、長期間働いてもらえる職場づくりを行った。

人材確保については、ハローワークや県社協の人材センターからの応募者のみならず、人材紹介業者からの紹介者についても厳選した上で数名の面接を行った。しかしながら、紹介会社より採用できたのは1名のみであった。さらに、Webでの求人サイトにも2か所でデモ投稿したが、応募があったものの採用できた人材はいなかった。

平成31年度職員採用・・・8名（介護職員6名）中途採用含む

法人合同職員研修について、新人研修を4月1・2日（7名）実施したが、月例研修については、年末からの感染症の罹患者の増大もあり2回程度しかできなかった。

### 4．組織統治（ガバナンス）の確立

管理職会議（8名）とコア会議（4名）を毎月実施し、事業執行確認及び経営状況の確認を理事長のもと行った。

また、財務・会計業務については、会計統括責任者の指示のもと各会計責任者、会計担当者が会計処理を行い、年1回監事による監査を受けている。

本部機能と各拠点機能の効率よい事務処理ができるよう、会計ソフト・介護請求ソフト等の検討やインフラの整備を検討する必要がある。

### 【その他】

理事会・評議員会の開催

各会議については、以下の通りである。

理事会・評議員会については、概ね計画通りの実施ができ、事業計画・報告、補正予算計画、各規定等の改定、理事長の専決事項の報告等を行った。

今年度は、苦情解決委員会を開催し、第三者委員の方々に苦情及び事故等の報告を行い、客観的な視点でのアドバイスを頂いた。

理事会（6名）の開催

6月（2回）・11月・3月 の 年4回開催

評議員会（7名）の開催

6月・11月・3月 の 年3回開催

会計監査の実施

監事による監査 5月に実施

苦情解決委員会の開催（第三者委員：2名参加）

7月に実施

委員1名の退任につき、新任1名を置く。

## ・サービス別運営報告・事業報告

### <全体総括>

#### 1. サービスの質の向上

利用者・家族に看取りのニーズが増加しており、QOLの向上についてだけでなく、緊急時の対応についても介護・看護の連携、嘱託医や協力医療機関との連携を密にし、利用者に寄り添うケアを実施した。

#### 2. 防災計画の充実

災害の予防を図り、万が一の被害を最小限に食い止めるため、火災避難訓練（年2回）や整備点検を行った。（スプリンクラー貯水槽の取り換え）

事業継続計画（BCP）については、平成30年度西日本豪雨災害が発生したことから、早期に検討を行う必要があったが、作成するよう務める。

#### 3. 地域との連携強化

31年度の「敬老フェスタ」は昨年、利用者と家族の団楽の時間が少なかったという反省から、地域住民へのPRをせず、関係者のみで家庭的な雰囲気の中で開催した。ただし地元磐梨中学校の吹奏楽部のミニコンサートについては、前回好評であったため今年度も実施し地域交流の場とした。（広虫荘）

近隣地域のサロン会、「くまカフェ」への参加（年1回、1回は新型コロナウイルス感染拡大予防の影響で中止）を行い地域住民と情報交換を行うことができた。（広虫荘）

地域の社会活動への一環として、地域ケアカフェを、特養・ケアハウス・グループホーム共同で毎月1回開催し好評を得た。（和気広虫荘）

ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供した。

	広虫荘	和気広虫荘
旭川荘厚生専門学院	1名	1名
教員養成	-	1名
中学生夏ボラ体験(磐梨中・和気中)	2名	4名
福祉体験活動(磐梨中・和気中)	68名	2名
福祉体験活動(磐梨小)	11名	-
インターンシップ(和気閑谷高)	-	2名
ボランティア(和気小)		22名

#### 4. 次世代を担う職員の人材育成及び確保

毎年キャリア・アップを推進・支援していく役割を担うアセッサー養成講習の受講を行っているが、本年度はカリキュラム内の集合研修が岡山県で開催されないことや介護職員へのキャリア段位取得がなされていないことから、受講対象者無しとした。

今後は、職員の人材育成について、特に新人の育成について体系づけ、定着率の向上と働き甲斐のある職場を作る必要がある。

内・外部における研修(接遇研修、認知症実践者研修、リスクマネジメント研修、感染症対策研修等)に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等を養い、専門的知識・技術の向上をおこなった。

今年度は、ハローワークからの中途採用者が2名、紹介会社からの採用が1名あったものの求人枠を十分に満たすには及ばなかった。しかしながら、いったん中途退職をしたものの短期間で再就職希望が両拠点合わせ4名いた。このことは、職員にとって当法人が働きやす

い、魅力ある職場であったといえる。

#### 5. 安定した経営を行う

稼働率95%を目標に1年間運営したが、2つの特別養護老人ホームでは目標の達成ができなかった。グループホーム、ケアハウスについては、目標達成ができた。

両拠点において、インフルエンザ・ノロウイルス等の注意報・警報時期での荘内感染者は数名いたものの、広く拡散することはなく終焉できた。

また、新型コロナウイルスが国内で発生し、衛生用品の確保が困難となったが、普段から在庫管理を行っていたことで、不足になることはなかった。今後も業者からの情報収集を行い、サービスに影響が出ないようにしたい。

今後もより一層、営業努力・サービスの質の向上・利用者の満足度の向上を目標に経営努力を行うことが必要である。

( - 1 ) 特別養護老人ホーム広虫荘・広虫荘短期入所生活介護事業所・デイサービスセンターひろむし

開設：昭和 45 年 5 月 1 日 開設  
 種別：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） / 定員：110 名  
 短期入所生活介護事業 / 定員：4 名  
 （4 人部屋 10 室、3 人部屋 7 室、2 人部屋 21 室、個室 11 室）  
 通所介護事業 / 定員：19 名 / 1 日  
 構造・面積 鉄筋コンクリート 5 階建  
 建物面積 / 4,547.87 m<sup>2</sup>

介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	延べ利用人数						平均 介護度	日数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,608	8,303	10,203	10,535	4,845	36,494	3.18	366	90.65
前年度	1,933	8,292	8,701	10,365	7,040	36,331	3.14	365	90.49
比較	675	11	1,502	170	2,195	163	-	-	0.16

短期入所生活介護事業 年間の利用者状況

	延べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	249	147	231	6	7	766	1.7	366	52.32
前年度	63	59	244	96	188	683	3.27	365	46.78
比較	186	88	13	90	181	83	-	-	5.49

通所介護等事業 年間の利用者状況（延べ利用人数）

	要支援		要介護					計	1日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
4月	4		78	15	56	3		159	6.12
5月	5		92	9	59	10		175	6.48
6月	4		90	9	64	8		175	7
7月	4		83	9	50	9		155	5.74
8月	5		73	37	48	9		172	6.37
9月	4		64	22	40	2		132	5.28
10月			71	19	36			126	4.67

1 1月	5		77	26	34	1	1	139	5.56
1 2月	3	2	100	44	26	9		184	7.67
1月	4	4	101	57	11	1		174	7.25
2月	8	4	133	87	11			243	9.72
3月	8	7	134	60	13	5		227	8.73
計	45	17	1096	394	448	57	1	2058	6.68
前年度	50		1282	368	623	172	141	2636	8.67
比較	5	17	186	26	175	115	140	570	1.99

職員の状況

令和2年3月31日現在

	施設長	事務長	サービスマスター	事務員	相談員	介護支援専門員	看護職員	介護職員	機能訓練指導員	栄養士	調理員	介助員(掃除・洗濯)	夜警員	嘱託医
H31 特養	1	1	1	2	2	4	7	37	2	3	7	5	2	1
常勤換算	1	1	1	2	1.2	2.7	6.7	35.5	1	2.5	7	3.8	2	1
H30 特養	1	1	1	2	2	4	7	38	1	3	7	5	2	1
常勤換算	1	1	1	2	1.2	2.7	6.7	36.4	1	2.5	7	3.8	2	1
H30DS					2		1	4						

資格等の取得状況(複数の資格を持つ職員もいます。)

社会福祉士 3名 介護支援専門員 9名 介護福祉士 23名 社会福祉主事 7名  
 管理栄養士 1名 調理師 2名

( - 2 ) 特別養護老人ホーム広虫荘等の総括

○特別養護老人ホーム広虫荘の年間稼働率 95%を目標に運営を推進したものの、最終的には 90.65%となり目標にはおよばないものの、2年連続で増加傾向であった。

また、年間入院者数は、延べ約 692 人で、昨年より若干増加したが、年間平均入院者数は 1.9 人と 2 人を切る数値であった。看護・介護の連携のもと日々の健康管理と予防に努めている効果がでていいる。入院者を含む年間入居率は、92.6%であった。

インフルエンザ感染者はいなかったが、12月から1月にノロウイルスの感染者が発生し、大量感染には至らなかったもののさらなる予防に努める必要があると思われた。

○事故については細心の注意を払い、引き続き日常的な介護にも十分な配慮を行うことで、事故の無いケアを提供できるように日々研鑽を行う必要がある。

空調設備の更新や給湯器のガス化などにより、電気消費量については減少できたが、屋上からの雨漏り修繕、厨房・食堂の電灯LED化、スプリンクラー貯水槽交換などの大規模修繕を計画的に行ったが、全体的に修繕費に係る経費が大きい。

通所介護事業所では、目標の平均利用者数は、10人/日としていたが、年間平均は6.7人

/日と過去3年間で最低であった。しかし、下半期からのPR活動や近隣のデイサービスの閉鎖情報が流れ、年度末には、月間平均利用者数が9人前後となり、次年度にも引き続き継続できる利用者を確保できた。

年間の行事については、四季折々の歳事だけでなく、文化祭や熊山フェアなど利用者と一緒に実施できる行事を企画した。

利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮し、且つ、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。



( - 3 ) 特別養護老人ホーム和気広虫荘・和気広虫荘短期入所生活介護事業所

開設：昭和 51 年 5 月 1 日  
 種別：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）／定員：100 名  
 短期入所生活介護事業／（空床型）  
 （4 人部屋 19 室、3 人部屋 1 室、2 人部屋 10 室、個室 1 室）  
 構造・面積：鉄筋コンクリート 1 階建（一部 2 階建）  
 建物面積：2,377 m<sup>2</sup>

介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	944	3,044	8,257	11,024	10,142	33,411	3.81	366	91.28
前年度	820	3,340	7,290	12,557	8,931	32,938	3.90	365	90.25
比較	124	296	967	1,533	1,211	473	0.09		1.03

職員の状況（内は、派遣職員）

令和 2 年 3 月 31 日現在

	施設長	事務長	サービス課長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	看護師	介護職	機能訓練指導員	栄養士	調理員	掃除・洗濯員	夜警員	嘱託医
H31 特養	1	1	1	1	3	1	6 (1)	35	1	4	7	3	2	1
常勤換算	1	1	1	1	3	1	4.7 (0.8)	33.3	1	3	7.5	1	2	1
H30 特養	1	1	1	1	3	1	6 (1)	35 (1)	1	3	8	1	2	1
常勤換算	1	1	1	1	3	1	4.7 (0.8)	33.3 (1)	1	3	7.5	1	2	1
ケアハウス					1			4			1			
グループホーム								14						

資格等の取得状況（複数の資格を持つ職員もいます。）

社会福祉士 3 名 介護支援専門員 9 名 介護福祉士 41 名 社会福祉主事 5 名  
 管理栄養士 1 名 調理師 3 名 基礎研修 0 名 ヘルパー2級 12 名

#### ( - 4 ) 特別養護老人ホーム和気広虫荘等の総括

和気広虫荘の適正な収入の確保として、特養の年間稼働率 95%を目標に運営推進してきたが、年間の入所者の状況は、新規入所者 47 名、退去者 43 名、年間延べ入院者数は 1,789 名(前年度比 7.3%増)となり、実稼働率は 91.28%となり、年間入居率は 96.1%であった。

法人理念に基づき、公共的・公益的かつ信頼性の高い運営及び経営を実践し、施設の役割として、経営能力の更なる向上に努めた。

重度化に対応するため、施設内での医療的ケアや、増加する認知症の方への対応など状況の変化に対応したサービスを提供した。

利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮した。また、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。看取り加算算定者は 13 件であった。

感染予防対策に努めてきたが、インフルエンザについては、12月下旬から1月中旬にかけて職員、利用者が罹患されたが、現場の的確な対応により、集団発生に至ることなく終息に向かうことができた。今後においても、新型コロナウイルス感染症対策も含め、利用者の手指消毒の徹底や職員の感染予防対策の強化など、職員個々の感染への危機意識を高め、利用者と働く職員の健康と安全を守ることができるよう取り組んでいく。

( - 5 ) グループホームひろむし

開 設：平成 13 年 4 月 23 日  
 種 別：認知症対応型共同生活事業 入所定員：18 名（個室 18 室）  
 面 積：250.62㎡（ユニット1） 248.84㎡（ユニット2）

年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,529	1,938	1,513	424	0	6,404	1.97	366	97.18
前年度	2,855	1,296	1,777	214	21	6,163	2.32	365	93.81
比 較	326	642	264	210	21	241	0.35		3.31

( - 6 ) グループホームひろむしの総括

○今年度の入所の状況は、新入居者 6 名・退去者 5 名、入院者は 5 人により、年間延入院者数は 167 人により、前年度対比 42.0%となり、利用者実稼働率は 97.18%となった。

○運営推進委員会(年 6 回)、予定のとおり開催した。

○和気町地域密着連絡協議会(年 6 回)には、毎回出席し研修、情報交換等を行い、連絡も密に取り合っている。

○家族会(9 月)、その他の行事等は予定のとおり実施できた。

地域ケアカフェ(月 1 回)は、予定のとおり実施できた。

(3 月からは、新型コロナウイルス感染症対策により、中止となっている。)

○ご家族や地域の方々の理解、協力を得て、ご利用者様の意思を尊重し、個々にあった生活ができるよう支援を行い、また職員研鑽を積みよりよいサービスの提供ができた。

## ( - 7 ) ケアハウスわけ

開 設：平成 13 年 4 月 23 日  
種 別：軽費老人ホーム 入居 定員：30 名  
構造・面積：鉄筋コンクリート造 3 階建 8 6 1 1 . 4 5 m<sup>2</sup>  
全室個室 ( 30 室 )

### 年間の利用者状況

#### 当年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	744	802	843	779	861	858	867	855	915	883	781	852	10,040
入居	1	3	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	9
退去	3	1	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	9

#### 前年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	835	878	817	897	881	798	865	795	842	896	777	806	10,087
入居	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	6
退去	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5

## ( - 8 ) ケアハウスわけの総括

- 入居者平均年齢が約 83 歳と昨年度から変化なく推移しましたが、加齢に伴い慢性疾患や転倒による骨折などの傷病によって入院となり、結果として退所に繋がるケースが多い一年でした。入院延べ日数：758 日（昨年より 12% 増加）新規入居者 9 名・退去者 9 名により、利用者稼働率は、91.43% となった。

入居者の ADL の低下や認知症の進行により、より個々に応じた多様なサービス提供が求められるようになっている。また、施設生活を続けるため介護保険による訪問介護サービスや通所介護利用者も入居者の半数の方が利用されているのが現状である。

- 特養・グループホームと共同で、月 1 回の地域ケアカフェ、その他年間行事等は予定のとおり実施できた。  
( 3 月からは、新型コロナウイルス感染症対策により、中止となっている。 )